

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果の概要（佐世保市）

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 実施日 令和5年4月18日（火）

### 3 対象 小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年 中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年

### 4 調査方式

※平成19年度から21年度までは悉皆調査で行われ、22年度及び24年度は抽出対象校と希望利用校に分けられ取り組むことになった。23年度は東日本大震災の影響を受けて中止。25年度からは悉皆調査で実施。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中止。

### 5 実施校数及び実施児童・生徒数

	学 校 数	児童・生徒数
小学校及び義務教育学校前期課程	46校／46校	2,074名
中学校及び義務教育学校後期課程	26校／26校	1,849名

### 6 調査内容

#### (1) 教科に関する調査

小学校調査・・・国語、算数 中学校調査・・・国語、数学、英語  
(令和5年度は理科は未実施)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力等に関わる内容

#### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童・生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

※調査問題は、次の Web ページから閲覧できます。

<https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

## Ⅱ 教科に関する調査結果の概要（本市と全国・長崎県との比較）

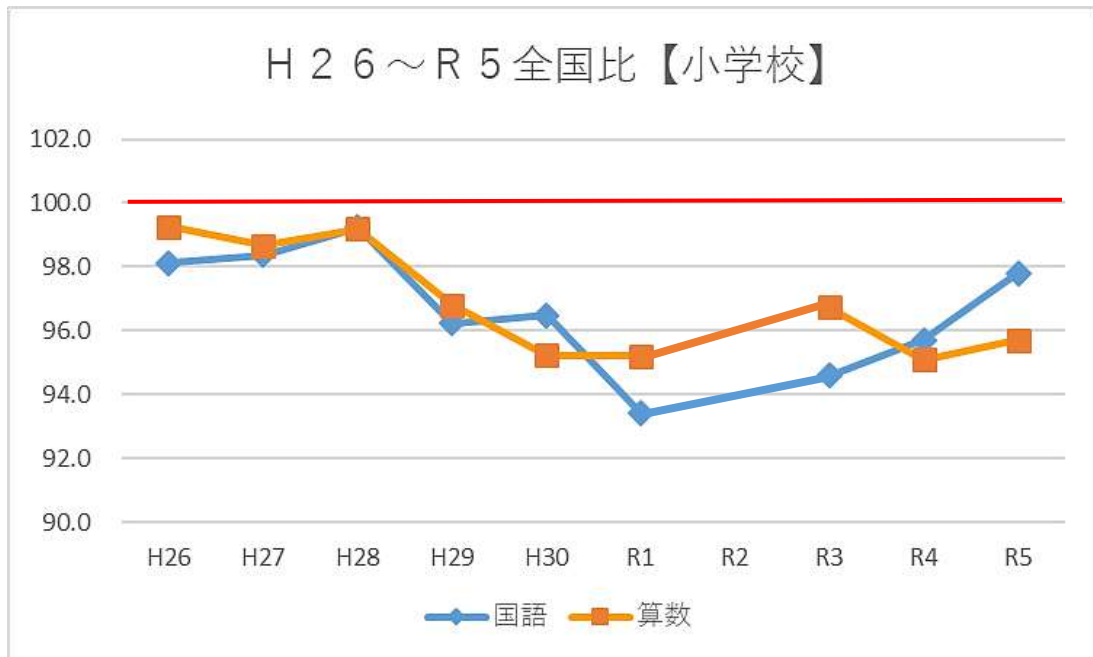
※佐世保市及び長崎県の各教科の平均正答率は、四捨五入して整数で表しています。

### 1 小学校及び義務教育学校前期課程

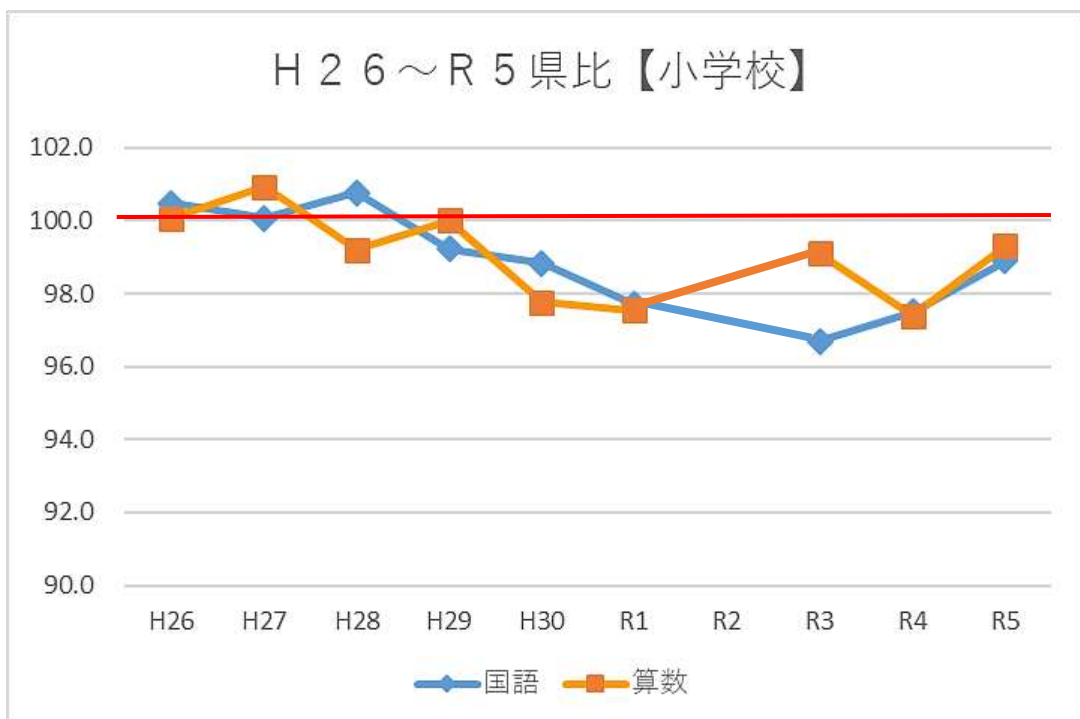
単位：％（平均正答率）

	佐世保市	長崎県	全国	本市の 全国達成率
国語	66	66	67.2	97.8
算数	60	60	62.5	95.7

全国比の経年比較（全国の平均正答率を 100 とした時の割合）



県比の経年比較（県の平均正答率を 100 とした時の割合）

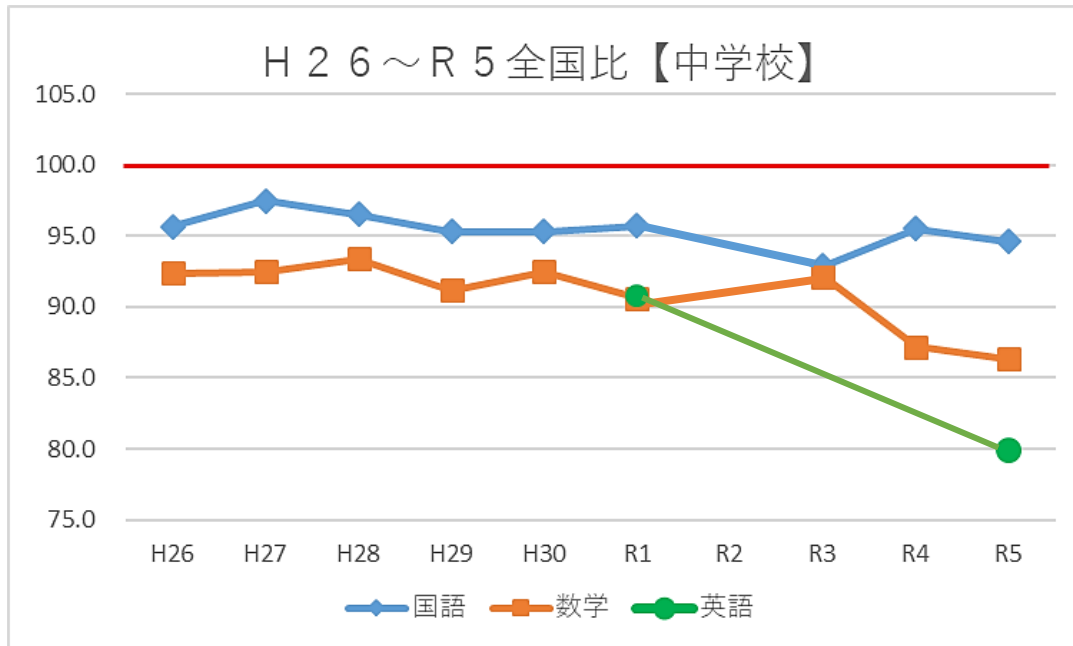


2 中学校及び義務教育学校後期課程

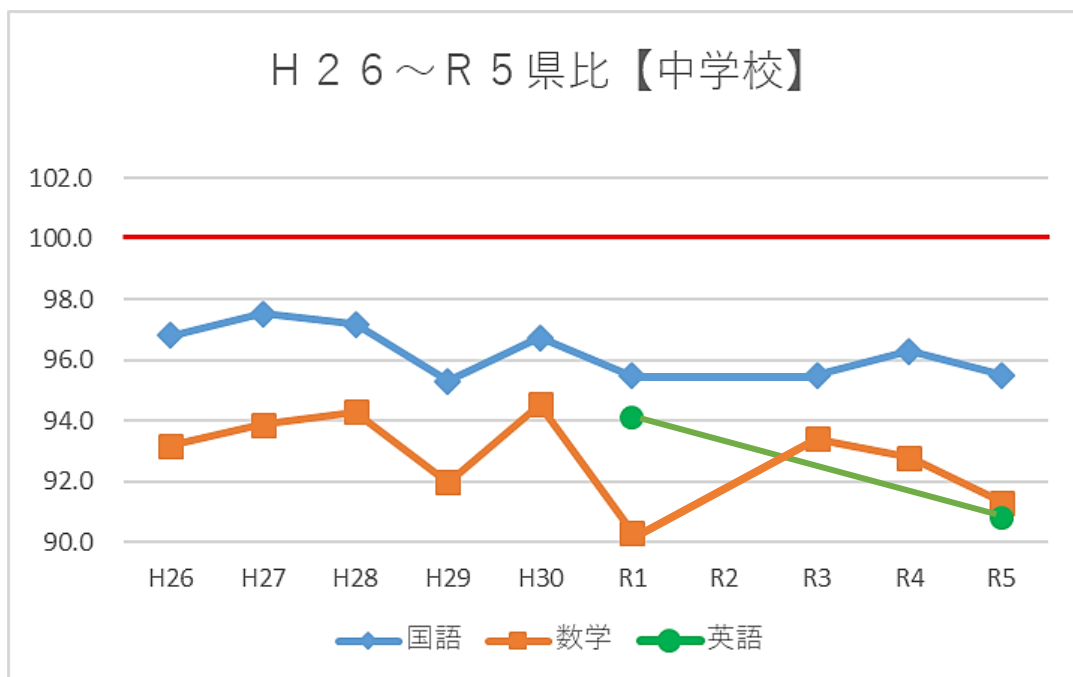
単位：％（平均正答率）

	佐世保市	長崎県	全国	本市の 全国達成率
国語	66	69	69.8	94.6
数学	44	48	51.0	86.3
英語	36	40	45.6	79.8

全国比の経年比較（全国の平均正答率を100とした時の割合）



県比の経年比較（県の平均正答率を100とした時の割合）

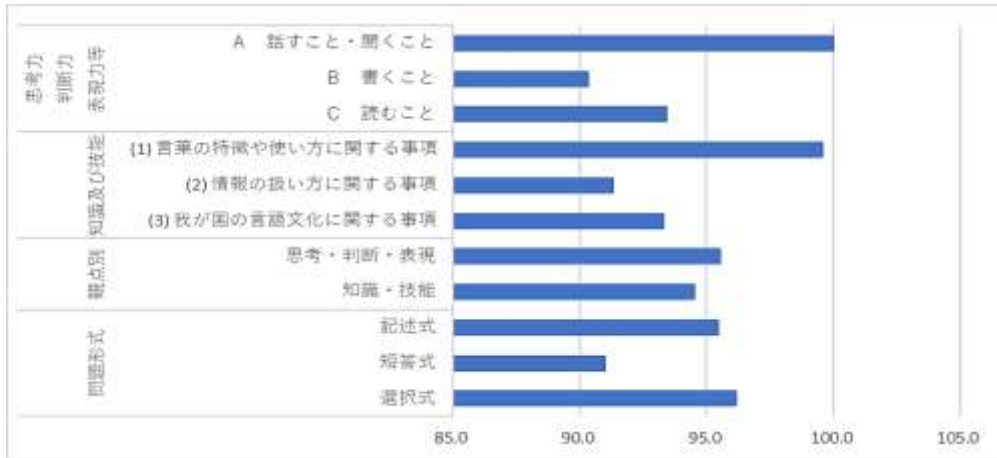


### Ⅲ 各教科の結果

#### 1 小学校 国語

(1) 領域別観点別等全国比達成率（全国平均正答率を100と見たときの割合）

※達成率＝（佐世保市平均÷全国平均）×100



(2) 平均正答率が比較的高い主な設問の趣旨 ※上段は市（全国との差）、下段は全国  
※全国との比較で平均正答率が高い問題及び平均正答率が高い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率
1 四(2)イ	送り仮名に注意して、漢字を正しく文の中で使うことができるかどうかをみる	96.2 (+3.1)
		93.1
3 二	目的意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	70.7 (+0.5)
		70.2

(3) 平均正答率が比較的低い設問の趣旨と無解答率 ※上段は市（全国との差）、下段は全国  
※全国との比較で平均正答率が低い問題及び平均正答率が低い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率	無解答率
1 一	原因と結果など、情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	60.7 (-4.0)	0.4
		64.7	1.8
1 二	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	24.1 (-2.6)	5.9
		26.7	7.1
1 四	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる	75.6 (-4.2)	0.3
		79.8	1.0
2 二	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる	65.0 (-2.4)	0.4
		67.4	1.4
2 四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	53.9 (-2.3)	7.6
		56.2	8.5

#### (4) 改善策

- 単元の導入段階では「何を学ぶのか」「何のために学ぶのか」といった学習の目的や課題解決の見通し（学習計画）を児童と共有し、授業に対する主体的な構えを整える。ここでは、児童に「やってみたい」と思わせる仕掛けを存分に考えたい。また、対話活動には「ズレ」が必要である。意見や価値観、前の自分の考えとの「ズレ」を生み出す発問を適切なタイミングで発することで、学びの深まりや広がりを実感できる授業につなげたい。
- 情報と情報の関係を捉えるためには、共通点や相違点、考えと理由、原因と結果など、文章の内容理解と同時に段落の役割についても文と文を矢印でつなぐなどして確認させる。内容理解については、キーワードに着目させながら話や文章の中心部分を大づかみに捉えさせたい。内容のまとめごとにより段落をつくることで、段落相互の関係を捉えやすくする。
- 課題については、学校全体で共有を図り、学びの系統性を意識した授業改善につなげたい。特に内容理解に課題がある児童への支援については、全職員で策を講じたい。

(5) 調査問題を授業改善に役立てる

**3**

谷さんの学級では、学校ボランティアの人たちを全校にしようかというために、自分の相手を決めてインタビューをすることにしました。次は、「谷さんの考え」と「インタビューの様子」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

**【谷さんの考え】**

学校ボランティアの中で、登下校でお世話になっている見守りボランティアの方は、毎朝早くから大変そう。どうして続けているのだろう。私の通学路に立ってくださっている寺田さんと山本さんにインタビューをして、お二人の思いを聞いてみよう。

**【インタビューの様子】**

谷さん：こんにちは。いつも私たちの登下校を見守ってくださり、ありがとうございます。今日は、お二人からお話を聞きたいので、どうぞよろしくお願いします。

寺田さん：お二人は、毎朝七時三十分から活動されているそうですね。大変ではありませんか。確かに朝早いのは大変です。でも、私は、子供たちに安全に登下校をしてほしいと思っています。

山本さん：私は、最近この地域に住むようになり、見守りボランティアを始めました。慣れないうちは大変でしたが、今では元気をもらっています。

谷さん：そうなのでですね。元気をもらっているということについて、もう少し詳しく教えてください。

**1**

川村さんは、学校の田んぼで取り込んだ米作りについて文章を書こうとしています。次は、「川村さんの考え」と川村さんが選んだ「カード①」から「カード⑤」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

**【川村さんの考え】**

雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて、問題点とその解決方法を書こう。

**【カード①】**

6月24日  
 ・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。  
 ・このまま雑草が増えたら米のしゅうかくにいきようするのではないかと心配だ。

**【カード②】**

6月30日  
 ・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。  
 ・どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。  
 ・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。  
 ・調査きかん 7月1日～15日

**【カード③】**

7月19日  
 ・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが足りていないと考えられる。  
 ・雑草の量と米のしゅうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

**【カード④】**

7月20日  
 [農家の石山さんのお話]  
 ・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。  
 ・雑草が多いと、いねが病気になることがある。  
 ・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

**【カード⑤】**

7月21日  
 [学校でできる解決方法]  
 ・雑草取りの回数を増やす。  
 ・雑草取りの人数を増やす。

調査問題のリード文には、授業改善につながるヒントが隠されています。例示している問題に共通していることは、

- ① 学ぶ目的
- ② 学習に対する児童の思いや願い

が示されてあることです。

「主体的・対話的で深い学び」は、児童に教科書を開く目的を感じさせたり「なりたい自分」を思い描かせたりすることから始まります。そうすることで、その後の学習活動の見通しが持てたり、授業で取り組む課題に切実さを感じたりできるようになります。

単元や教材との出会わせ方

「できるようにになりたい」「表現したい」といった学習意欲が高まるよう、クイズ形式のやり取り、実物に触れさせる、教師が作った作品を提示するなど、単元や教材との出会わせ方を工夫してみましょう。

さらに、総合的な学習の時間や他教科と横断的につないだりするなどの工夫についても考えると、学習効果の高まりが期待できます。

児童の疑問を原動力に

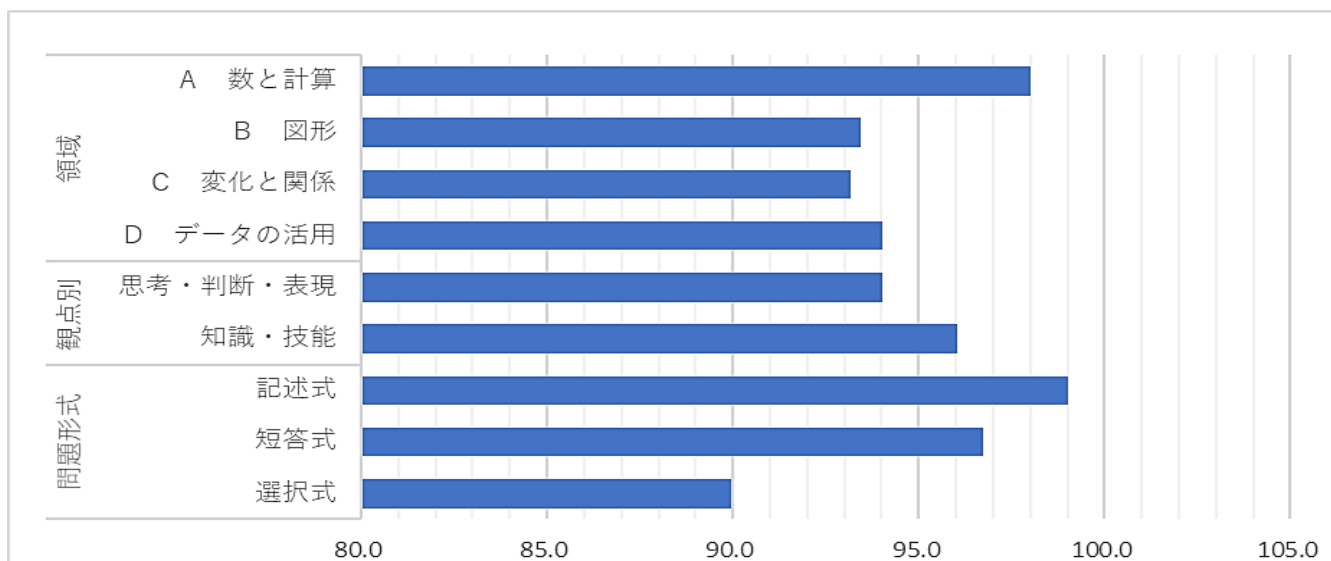
児童が抱く「なぜ～だろう」という疑問は学びを推進する原動力となります。授業では、「答え」よりも「問い」の方が重要です。叙述をたよりに読み進めたり、目的や意図に応じて書いたりする中で、問いに対する自分の考えが少しずつ形成されていきます。その過程で、自分の考えを確かめなくなったり、他者の考えを参考にしなくなったりすると、対話活動も必要感を帯びてきます。



## 2 小学校 算数

(1) 領域別観点別等全国比達成率（全国平均正答率を100と見たときの割合）

※達成率＝（佐世保市平均÷全国平均）×100



(2) 平均正答率が比較的高い主な設問の趣旨 ※上段は市（全国との差）、下段は全国  
※全国との比較で平均正答率が高い問題及び平均正答率が高い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率
1 (1)	伴って変わる二つの数量について表から変化の特徴を読み取り、知りたい数を求めることができる	94.5 (+1.0)
		93.5
1 (4)	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができる	82.9 (+2.1)
		80.8
4 (3)	複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、相違点を言葉と数を用いて記述することができる	57.4 (+1.2)
		56.2

(3) 平均正答率が比較的低い設問の趣旨と無解答率 ※上段は市（全国との差）、下段は全国  
※全国との比較で平均正答率が低い問題及び平均正答率が低い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率	無解答率
2 (1)	台形の意味や性質を理解している	26.2 (-8.6)	0.5
		34.8	0.9
2 (4)	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その根拠を言葉や数を用いて記述することができる	57.3 (-7.3)	2.2
		64.6	3.3
3 (4)	除法の筆算について、各段階の商の意味を考慮することができる	19.0 (-2.4)	0.8
		21.4	1.1
4 (1)	百分率で表された割合について理解している	57.3 (-6.6)	1.2
		63.9	1.6

### (4) 改善策

- 今年度も継続して割合の理解に課題がある。授業の中で、「具体的な場面（児童の日常に近い場面設定）や図等を使って視覚的に理解を深めること」や百分率から具体的な場面を想起させるなど、理解したことを生かして活用する活動を多く取り入れることで、基準量、比較量、割合の関係についての概念理解につなげたい。
- 公式や筆算を理解させるうえで、途中式の部分についても適宜着目させ、言葉や数を使って記述し、考えを対話させる活動を取り入れることで、理解の深化へとつなげたい。また、様々な単元において「求めた数は何を表している等、自分の考えを記述すること」、「記述をもとに交流すること」の活動を取り入れることで「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の育成につなげたい。

(5) 平均正答率が比較的低い設問

2

(1) ゆいさんは、下のようにテープを直線で切って、㉠、㉡、㉢、㉣のような四角形をつくります。



㉠、㉡、㉢、㉣について、どのような四角形なのかを、次のようにまとめます。

㉠、㉡、㉢、㉣はどれも  です。  
 なぜなら、 だからです。

上の①にあてはまるものを、下の 1 から 5 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、上の②にあてはまるものを、下の 6 から 10 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 長方形
  - 2 正方形
  - ① 3 台形
  - 4 平行四辺形
  - 5 ひし形
- 
- 6 向かい合った2組の辺が平行な四角形
  - 7 向かい合った1組の辺が平行な四角形
  - ② 8 4つの辺の長さが等しい四角形
  - 9 向かい合った辺の長さが等しい四角形
  - 10 向かい合った角の大きさが等しい四角形

児童の多くは台形を視覚的に理解できている。しかし、視覚的な図形認識はできても、台形の性質や構成要素等の理解まで至っていない状況が見られる。授業では、「なぜ台形といえるのか」等、図形の意味や性質について、全ての児童が自分の言葉で説明したり、書いたりする場面を設定することが考えられる。

3

(4) けんたさんは、 $66 \div 3$ の筆算について、次のように図を使ってふりしました。

【 $66 \div 3$ の筆算】	【けんたさんの説明】
手順1 $\begin{array}{r} 3 \overline{)66} \end{array}$	10を㉠、1を㉡で表して、60について考えます。 ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠
手順2 $\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \end{array}$	㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠
手順3 $\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \\ \underline{6} \end{array}$	6について考えます。 ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠
手順4 $\begin{array}{r} 22 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \\ \underline{6} \\ \underline{6} \end{array}$	㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠
手順5 $\begin{array}{r} 22 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \\ \underline{6} \\ \underline{6} \\ \underline{0} \end{array}$	㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠ ㉠

【けんたさんの説明】をもとにすると、 $66 \div 3$ の計算を、下のようにも考えることもできます。

$$\begin{aligned}
 66 \div 3 &= (60 + 6) \div 3 \\
 &= \overset{\text{あ}}{60} \div 3 + \overset{\text{い}}{6} \div 3 \\
 &= \overset{\text{う}}{20} + \overset{\text{え}}{2} \\
 &= 22
 \end{aligned}$$

【 $66 \div 3$ の筆算】の手順2で十の位にたてた「2」は、上の式のあ、い、う、えのどの計算をした結果を表していますか。1つ選んで、その記号を書きましょう。

手順2

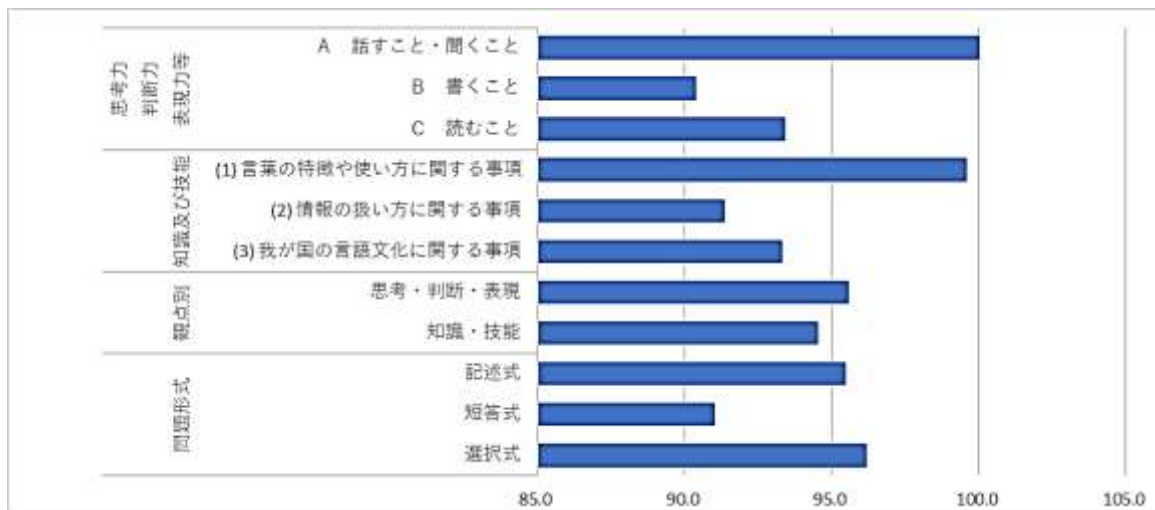
$$\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \end{array}$$

授業では、除法の筆算が、被除数の66を60と6に分けて計算するという考え方に基づいていることを理解させることが大切である。そのためには、問題のように、筆算を具体物や図に表すことで、筆算の意味を式と関連付けて考察できるようにしたり、説明させたりする場面等を設定したい。

### 3 中学校 国語

(1) 領域別観点別等全国比達成率（全国平均正答率を100と見たときの割合）

※達成率＝（佐世保市平均÷全国平均）×100



(2) 平均正答率が比較的高い主な設問の趣旨 ※上段は市（全国との差）、下段は全国  
※全国との比較で平均正答率が高い問題及び平均正答率が高い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率
1ー	インタビューの前に準備したメモについて説明したものを選択させることで、質問する内容を検討できるかどうかをみる	87.4(-0.1)
		87.5
1四	インタビューのまとめとして自分の考えを書かせることで、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	82.3(-0.3)
		82.5

(3) 平均正答率が比較的低い設問の趣旨と無解答率 ※上段は市（全国との差）、下段は全国  
※全国との比較で平均正答率が低い問題及び平均正答率が低い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率	無解答率
3ー	レポートの下書きの一部として、文の一部を直す意図として適切なものを選択することをとおして、読み手の立場に立ち、文章を整えられるかをみる	47.3(-7.0)	0.7
		54.3	0.6
3三	『判じ絵』とは何か」に書かれた部分を二つに分け、後半の見出しを書かせることをとおして、情報と情報の関係について理解しているかをみる	53.9(-7.9)	2.0
		61.8	2.1
4三	現代語で書かれた「竹取物語」の工夫点について古典と比較して書かせることで、文章の構成等について根拠を明確にして書けるかどうかをみる	42.3(-7.7)	27.1
		50.0	20.7
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものと適切なものを選択することをとおして、文章を比較し、表現の効果について考えられるかをみる	57.5(-5.5)	0.3
		63.0	0.4
3四	『判じ絵』解説の面白さを、具体例を示しながら解説の仕方を書くことをとおして、自分の考えが伝わる文章になるように書けるかどうかをみる	67.0(-5.1)	12.1
		72.1	10.2

※個別の問題については、紙幅の都合上、割愛しております。詳しくは国立教育政策研究所ホームページをご参照ください。



#### (4) 改善策

##### 【今回の調査問題に関して】

- 作品を読解させる際には、「何について書かれた作品ですか」「いくつのまとめり（視点）から書かれていますか」など、まずは作品全体を俯瞰的にとらえさせ、書かれている内容を大まかにつかませるようにする。そうすることで、次第に「この段落で問題提起しているな」「ここで話題が変わったな」など、段落ごとの役割に対する理解が進んでくる。その上で、内容のまとめりを「言いたいことを中心」を軸に要約させたり、書き手の考えの進め方（構成や展開）を、書き手の意図とともに考えさせたりしながら、内容の深い理解につなげる。
- 「事実」「考え」「引用」など、国語科における学習用語の定義を説明できるようにする。

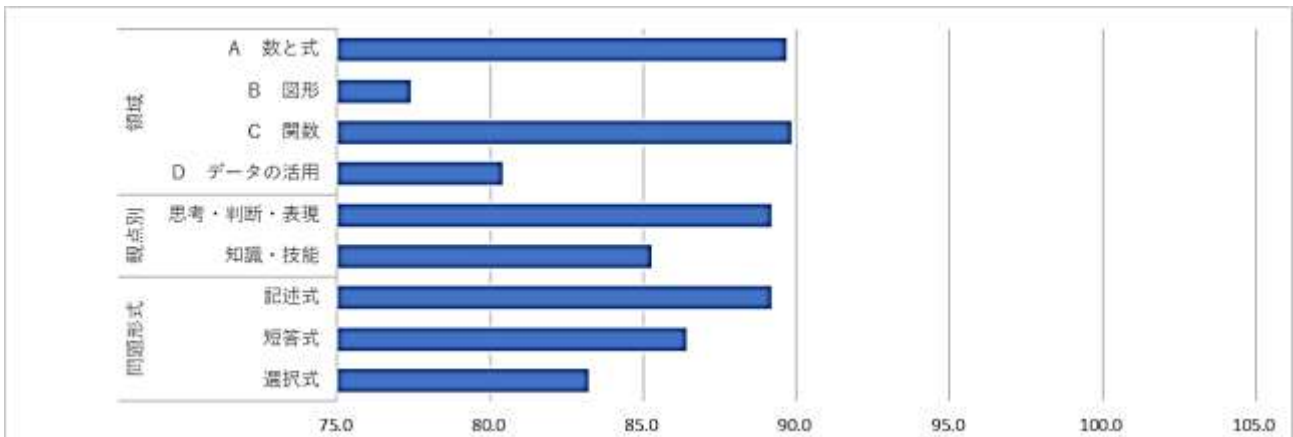
##### 【日頃の学習指導に関して】

- 国語科は言語活動を通して、身に付けさせたい資質・能力を身に付けさせる教科であるという原点に立ち、生徒が主役となる魅力的で効果的な言語活動を仕組みたい。
- 生徒の実態（優れている点や課題となる点）を踏まえた上で単元の学習計画に軽重を付けたり、教科書以外の文章（他の同ジャンル作品、新聞記事、道徳教材等）を読ませたりするなど、生徒の興味・関心を考慮した言語活動を仕組みながら、「わかる授業（質の高い授業）」を目指したい。
- 生徒が自分の能力や進捗状況に応じて学習する教材や課題解決の方法を選択できるよう、単元の中に生徒自身が目的に応じて学習できる時間を位置付けるなど学習計画に柔軟性を持たせたい。
- 「読解力」は文章を読み解く力のみならず、図表を分析したり、自分の体験などと関連付けたりしながら構築した自分の考えを発信するところまでと捉えたい。「話すために読む」「書くために読む」など、表現活動や自分の考えのアウトプットとセットで単元を構想し、何のために読む（書く）のか、目的意識をもって作品や課題と出会う工夫したい。
- 学期に1つ程度、自作の単元に挑戦したい。単元のテーマは、「言葉に関すること」「人に関すること」「社会に関すること」「自然に関すること」の大きく4つの中から考えると単元をつくりやすくしたい。
- 評価テストの問題の質を向上させる。問い方、問題の配置、場面設定、選択肢の難易度、配点など、文科省の調査問題を問題作りの参考としたい。自分が作成した問題を他者の目で確認することで、妥当性や信頼性を確保するよう努めたい。また、指導したことを正しく見取れる問題かどうかについても十分検討するようにしたい。  
評価後は、評価したままにせず、目標を達成できていない生徒のフォローアップや授業での重点指導など必ず課題の改善につなげたい。
- 授業改善については、省察の視点に立ち、自分の気付きだけでなく、他者の気付きを取り入れるようにしたい。また、生徒の授業満足度を授業改善に取り入れるようにすると、生徒の学びの状況を把握しやすい。授業の終末では、具体例を挙げながら、生徒の頑張りを褒めたり認めたりしたい。
- 授業を参観し合うなど、日常的に教科の指導方法や生徒の姿について話題にする雰囲気を作っていきたい。また、活動中心の単元（活動あって学び無し）にならないよう、授業の中で「鍛える場面」や「すーっと流れない部分」を授業の中に作るようにしたい。

#### 4 中学校 数学

(1) 領域別観点別等全国比達成率（全国平均正答率を100と見たときの割合）

※達成率＝（佐世保市平均÷全国平均）×100



(2) 平均正答率が比較的高い主な設問の趣旨 ※上段は市（全国との差）、下段は全国  
※全国との比較で平均正答率が高い問題及び平均正答率が高い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率
6(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	87.9 (-1.0)
		88.9
7(2)	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	34.1 (+0.5)
		33.6

(3) 平均正答率が比較的低い設問の趣旨と無解答率 ※上段は市（全国との差）、下段は全国  
※全国との比較で平均正答率が低い問題及び平均正答率が低い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率	無解答率
1	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	34.2 (-11.9)	0.2
		46.1	0.1
5	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	30.1 (-16.0)	11.5
		46.1	11.0
7(1)	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる	52.8 (-12.9)	7.5
		65.7	5.6
9(1)	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	24.9 (-7.2)	26.5
		32.1	24.7

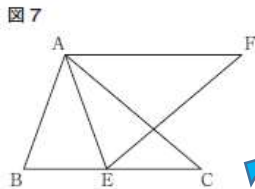
#### (4) 改善策

- 問題番号1・5・7(1)では、数学用語の意味理解に課題が見られる。身近な数に関する様々な事象を考察し、それらを数学用語を用いて表現する学習活動（時差の違いを+、-の符号を使って表現したり、スポーツテストの結果を度数分布表や箱ひげ図で表現したりするなど）を設定したい。その際、自分が表現した図や表を「既習事項である数学用語を用いて」ペアで交互に説明させるなど、知識・技能の定着を図ることを大切にしたい。
- 問題番号9(1)では、証明すべきことに対する見通しをもたせるとともに、既習事項を基に構想を立てる（2つの直線が平行であることを証明するには錯角が等しいことを証明すればよいから…）、その上で、仮説から結論を導く「推論の過程」を数学的に表現できるような指導にすることを大切にしたい。なお、証明を書く活動のときは、必要以上に書き方にこだわらず、第3学年までを見通し、徐々に簡潔・明瞭なものとなるよう段階的に指導していくように配慮したい。

(5) 平均正答率が比較的低い設問

**9** ※ (2) 証明を「振り返って」、図形の性質について論理的に考察する問題

(2) 優奈さんは、前ページの方法2の直線BCと直線AFが平行になるかどうかを調べるために、次の図7をかきました。図7の△ABCと△AEFは、それぞれCA=CB、FA=FEで、△ABC≡△AEFです。この図において、優奈さんはBC//AFであることを証明することにしました。



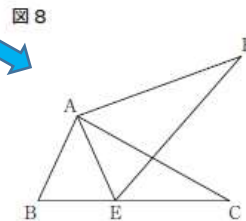
BC // AFであることは、次のように証明できます。

証明 1

△ABC≡△AEFより、合同な図形の対応する辺と角はそれぞれ等しいから、  
 AB=AE ……①  
 ∠ABC=∠AEF ……②  
 △AEFにおいて、二等辺三角形の底角は等しいから、  
 ∠EAF=∠AEF ……③  
 ②、③より、  
 ∠ABC=∠EAF ……④  
 また、①より、△ABEは二等辺三角形である。  
 二等辺三角形の底角は等しいから、  
 ∠ABE=∠AEB ……⑤  
 ∠ABE=∠ABCだから、④、⑤より、  
 ∠EAF=∠AEB  
 よって、錯角が等しいから、  
 BC // AF

既に「証明1」で証明されている事柄の条件である「合同な二等辺三角形」のうち、「合同であることは変えずに、二等辺三角形ではない三角形に変えた」場合に、平行にならないことを見いだすことができるかどうかをみる問題。

次に、優奈さんは、19ページの図1の2つの三角形を△ABC≡△DEFであることは変えずに、二等辺三角形ではない三角形に変えました。この場合も方法2でひいた2つの直線が平行になるかどうかを確かめたところ、2つの直線は平行になりませんでした。なぜ平行にならなくなったのかを調べるために、次の図8をかきました。図8の△ABCと△AEFは二等辺三角形ではなく、△ABC≡△AEFです。



優奈さんは、図8でBC//AFとならないのは、前ページの証明1の①から⑤のどれかが成り立たないからだと考えました。図8のような二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、∠EAF=∠AEBとならないため、BC//AFとなりません。このことは、証明1をもとに、次のように説明することができます。

二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、証明1の Ⅰ が成り立たないから、Ⅱ が成り立たない。よって、∠EAF=∠AEBとならないから、BC//AFとならない。

上の Ⅰ には証明1の①、②、③のどれか1つが、Ⅱ には証明1の④、⑤のどちらか1つが当てはまります。Ⅰ、Ⅱ に当てはまるものをそれぞれ書きなさい。

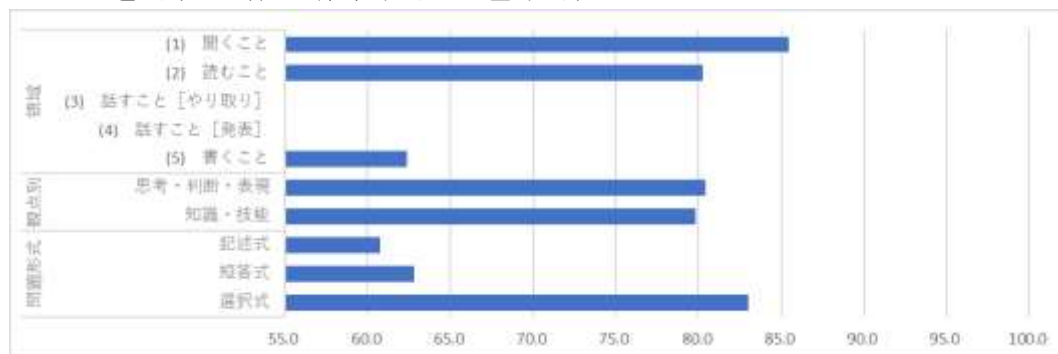
「合同な二等辺三角形」の場合の証明を振り返り、条件を変えた場合にも「変わらず成り立つ部分」と「成り立たなくなる部分」を図と対応させながら根気強く読み取ることができるようになることが大切。

一旦解決された問題であっても解決過程を振り返り、問題の条件を見直したり、共通する条件や図形の性質を見いだしたりすることを通して、統合的・発展的に考察することができるようにしていく。

5 中学校 英語（※「話すこと」については、参考値のため記載していません）

(1) 領域別観点別等全国比達成率（全国平均正答率を100と見たときの割合）

※達成率＝（佐世保市平均÷全国平均）×100



(2) 平均正答率が比較的高い主な設問の趣旨 ※上段は市（全国との差）、下段は全国  
 ※全国との比較で平均正答率が高い問題及び平均正答率が高い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	74.1(-4.9)
		79.0

(3) 平均正答率が比較的低い設問の趣旨と無解答率 ※上段は市（全国との差）、下段は全国  
 ※全国との比較で平均正答率が低い問題及び平均正答率が低い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率	無解答率
【聞くこと】 2	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	50.9(-10.2)	0.3
		61.1	0.2
【読むこと】 8 (1)	社会的な話題（ロボットについて書かれた英文）について、短い文章の要点をとらえることができるかどうかをみる	46.0(-10.1)	1.3
		56.1	0.8
【書くこと】 8 (2)	社会的な話題（ロボットについて書かれた英文）に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	13.3(-6.2)	34.7
		19.5	29.3
【書くこと】 9 (1) ①	未来表現 be going to の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる （会話が成り立つように英文を完成させる）	28.8(-11.6)	7.5
		40.4	6.6
【書くこと】 9 (1) ②	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる （会話が成り立つように英文を完成させる）	10.5(-10.4)	12.7
		20.9	10.9
【書くこと】 10	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	3.1(-4.3)	23.7
		7.4	21.4

(4) 改善策

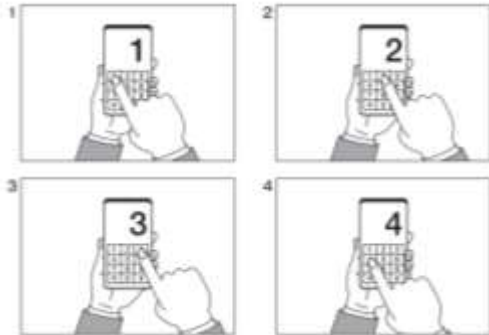
- 単元を通して、「生徒に身につけさせたい資質・能力（＝つけたい力が身についた生徒の姿）」を明確にする。その姿に近づくために、手立て（例：どのような知識・技能をつけないといけないのか、どのような場面を設定して言語活動を仕組むのか）を考える。
- 言語活動では、4技能5領域が複合的に組み合わせるよう意識する。「聞いたことについて意見をやりとりする」「読んだことについて書く」など、生徒が思考を働かせながら自分の考えや理由を表現する場面（言語活動）を仕組む。
- 1年次からの学びの連続性を意識する。教師の英語使用場面で意図的に既習事項を含んだり、実力テスト等においては県学力調査や全国学力調査を参考にした問題に取り組みせたりするなど、生徒に使用場面に繰り返し出会わせることで、着実な定着を図る。



(5) 平均正答率が比較的低い設問

2 (読解問題)

あなたは買物からの帰宅後、ショッピングセンターに傘を忘れたことに気が付きました。電話で問合せをしたところ、自動音声案内につながりました。流れてくる音声メッセージを聞き、あなたが選択すべき番号として最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。



8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



8 (1) 【読むこと ウ】 思考・判断・表現

★授業改善のためのアイデア(例)★

本文の内容理解を扱う場面で、一文ずつの精読ではなく、まずは全体を読ませて、概要や要点を捉えさせる。

(1) ブラウン先生が最も伝えたいことを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 We see many kinds of robots around us.
- 2 I saw a robot and it was working as a guide.
- 3 People will have fun if they live with robot pets.
- 4 Robots can change many people's lives for the better.

8 (2) 【書くこと ウ】 思考・判断・表現

★授業改善のためのアイデア(例)★

単元の内容や題材を活用して、生徒自身の考えを書かせる場面を設定する。学年や生徒の実態に応じて、指定語数を増減させたり、Yes/No プラス1文に留めたりするなどの工夫を図る。

2 【聞くこと ア】 思考・判断・表現

★授業改善のためのアイデア(例)★

「目的」をもって英語を聞かせるための「場面設定」をする。リスニング問題に限らず、普段の授業から「ただ聞く」のではなく、「何のために」聞くのかを生徒と共有する(生徒に意識させる)。

適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、それぞれ会話が成り立つように英文を完成させなさい。

(例) <友達同士の会話>

A: I called you at eight last night.

B: Oh, sorry. I (        do        ) my homework then.

【答え】 was doing

① <先生と生徒の会話>

A: Do you have any plans for summer vacation?

B: Yes. I (        visit        ) my uncle in London. I can't wait!

A: Wow, that's nice!

② <友達同士の会話>

A: Oh, you have a new watch!

B: Yes, I got it yesterday.

A: (        buy        ) the watch?

B: At a department store near the station.

9 (1) 【書くこと ア】 知識・技能

★授業改善のためのアイデア(例)★

スモールトーク等で、「週末したこと」などのトピックに沿った会話活動を展開する。その際、生徒のエラー(文法的誤りや不適切な語彙使用など)を後から取り上げ、全体にフィードバックする。 ※テスト等を作成する際に、県及び全国学力調査では、どのような問題が「知識・技能」を見取っているのかを参考にする。

10 あなたは、そのや部活動をするま

10 【書くこと イ】 思考・判断・表現

★授業改善のためのアイデア(例)★

書く言語活動において、「どのような場面で」、「誰に対して」、「何のために」書くのか(目的・場面・状況)を明確にする。 また、書く前に評価基準(ルーブリック)を生徒と共有することで、生徒自身が向かうべきゴールを把握しやすくなると同時に、評価後の振りかえりとしても活用できる。